



梅小路蒸気機関車館

僕らが生まれる前に、蒸気機関車はひとたび日本の線路から姿を消した。しかし、最近日本各地で再び運転されるようになった。蒸気機関車は今、静かなブームなのかもしれない。そんな蒸気機関車を支え、展示を行っている施設が京都にはある。それが今回紹介する梅小路蒸気機関車館だ。

蒸気機関車館は京都駅の少し西、梅小路公園の中にある。明治時代に建てられ、1996年まで現役で使われていた山陰線の旧二条駅舎が入口、資料展示館となっている。



▲資料展示館（旧二条駅舎）

資料展示館には蒸気機関車に関する資料がたくさんある。興味深いのが、石炭をボイラーの火室に投げ入れる練習を行う投炭練習機だ。蒸気機関車を1km動かすのに石炭が40kg必要だったらしい。スコップで1回に火室に投げ入れられる石炭の量は2kg。練習機の前にある2kgの石炭の模型がくっついたスコップを持って、どれだけ重労働だったかを

体験してみよう。他にも蒸気機関車のメカニズムを示した資料や、昔の梅小路機関区のジオラマがある。最盛期には総勢85両の蒸気機関車が在籍していたという。



▲投炭練習機

さて、この展示館の外が梅小路蒸気機関車館のメイン、扇形車庫だ。85両とはいかないものの、それでも18両もの機関車が展示されている。扇形倉庫にずらりと並んだ機関車たち、すごい迫力である。蒸気機関車には今時の電車にはないどっしりとした落ち着きがある。軽薄へと流れていく時代の中で、変わらずに大きく構えている姿は泰然とし、堂々としている。そして、磨きこまれた車体は黒く光り輝く。

ここの機関車はただ展示してあるだけでなく、18両中7両が走れる状態に整備されている。敷地内を「SLスチーム号」として走り、私たちも乗車できるのだ。わずか1kmほどではあるが、蒸気

交通：市バス206系統「七条大宮」下車
 入館料：大人400円（スチーム号乗車は別に200円）
 開館時間：9:30～17:30（入館は16:30まで）
 休館日：毎週月曜日（祝日、春休み・夏休み中除く）
 年末年始（12/29～1/3）
 URL：<http://www.mtm.or.jp/uslm/>
 電話：075-314-2996

機関車の魅力を堪能できる。「ポーッ」と力強い汽笛を鳴らし、もくもくと煙を出して走る。煙たいと感じるかもしれないが、それも蒸気機関車の面白さだ。

毎日最終運転後は、機関車を車庫に戻すために車庫の前の転車台で回転させるのだが、その作業も見ものだ。何人もの作業員が、重厚な機関車を誘導する。その姿は本当にたくましい。

多くの人々に愛され、今でもその勇壮で美しい姿を見せる機関車。僕らが生まれる前の日本に会いに梅小路に行ってみよう。「鉄道」という枠を越えた楽しさがそこにはある。（お一たち）